

(写)

富山県知事

新田 八朗 様

# 要 望 書

とやま呉西圏域連携推進協議会

日頃から、とやま呉西圏域（高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市）の発展のため格別のご高配を賜り深く感謝申し上げます。

今後、人口減少社会において地方創生により本圏域の活力の維持向上を図り、一層の連携強化を推進するため、格段のご配慮をよろしく願います。

令和2年11月

高岡市長 高橋 正樹

射水市長 夏野 元志

氷見市長 林 正之

砺波市長 夏野 修

小矢部市長 桜井 森夫

南砺市長 田中 幹夫

## 連携中枢都市圏における安定した財源確保について

高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市の6市で構成する「とやま呉西圏域」では、平成28年10月に連携中枢都市圏を形成し、各市間において連携協約を締結し、圏域の中長期的な将来像や具体的な取組を定める都市圏ビジョンを策定のうえ、連携事業を推進しているところである。

また、これまでの5カ年の取組の成果を踏まえ、現在、令和3年度からの5カ年を計画期間とする第2期とやま呉西圏域都市圏ビジョンの策定を進めている。

策定に当たっては、新型コロナウイルス感染症により、これまでの生活や経済活動のあり方が一変しており、「新しい生活様式」など社会の変化に適応した新たな視点で取組を進めていくこととしている。

人口減少・少子高齢化が急速に進行する中で、地域の再生・創生を果たすには、人口や行政サービス、生活基盤等のみならず、経済・雇用や都市構造の面も重視した連携の構築が必要である。そのためには、普通交付税、特別交付税など国からの安定的な財源を確保し、本圏域が実施する産業、観光、地域交通、医療・福祉等、各種連携施策を着実に推進することが重要である。

については、第2期都市圏ビジョンの計画期間においても、とやま呉西圏域連携中枢都市圏への国からの安定的な財源の確保について格別のご配慮をいただくとともに、6市の連携によって成果を挙げている本圏域のさらなる飛躍に向け、情報提供や助言など、引き続き積極的なご支援を願いたい。

- ・ とやま呉西圏域連携中枢都市圏への安定的な交付税措置

## 圏域全体の経済成長に資する公共交通ネットワークの 活性化について

北陸新幹線の金沢開業により、とやま呉西圏域と首都圏とのアクセス環境は格段に向上した。特に、臨時便ではあるが速達タイプ「かがやき」が新高岡駅に停車することで、本圏域の交流人口拡大による賑わい創出や観光誘客効果がもたらされた。新高岡駅を基点に飛騨地域・能登地域を含む“飛越能地域”への観光誘客効果を高め、その効果をとやま呉西圏域に取り込み、圏域の経済振興を図ってきたところである。

今後、敦賀開業を目前に控え、新高岡駅への「かがやき」の停車はさらに大きな意味を持つことになり、さらなる誘客拡大に向け、令和3年度では関西圏での観光説明会や中京圏へのプロモーション等も予定しているところである。

こうした効果を各地域へ波及させるためには、新幹線の二次交通となるアクセス路線であるJR城端線を始め、JR氷見線、万葉線、あいの風とやま鉄道などの地域公共交通の活性化、連携強化が重要であり、沿線各市が連携し、様々な施策に取り組んでいるところである。

また、地域公共交通は地域住民の生活に密着した路線であるため、観光客だけでなく、通勤・通学者や高齢者などの利便性の向上を図っている。

については、とやま呉西圏域の活性化のため、北陸新幹線新高岡駅への「かがやき」停車を始め、圏域の軸である公共交通ネットワークの機能強化・利便性向上について格別のご配慮を願いたい。

- ・北陸新幹線新高岡駅への「かがやき」停車
- ・「はくたか」の所要時間の短縮等や「つるぎ」との乗り継ぎ改善
- ・JR城端線・氷見線の活性化（城端線増便試行の継続、ラッピング列車の運行及び城端線・氷見線の直通化検討など城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画の推進支援）
- ・万葉線の維持・活性化
- ・あいの風とやま鉄道の高岡駅以西の利便性向上

## 中山間地域における鳥獣被害防止対策の推進について

中山間地域は農業生産活動等を通して、安全・安心な食料の供給、国土や自然環境の保全、優れた伝統文化の継承等の多面的な役割を担っているが、近年では高齢化や人口減少による担い手不足から、集落機能の低下や荒廃農地の増加が危惧されている。

現在、有害鳥獣による農作物被害額は高い水準で推移しており、人災を伴うクマや林業被害をもたらすシカのほか、イノシシによる被害は特に深刻で、最近では水稲、畑作のみならず中山間地域の農道法面やため池の堤体、農業用排水路の山側斜面等を掘り起こすことにより機能が損なわれるなど、農業用施設においても被害が頻繁に発生しており、さらなる被害拡大が懸念されている。

こうした鳥獣被害は、市町村単独では解決できない広域的な問題である。

これまで、森林の整備や放任果樹の除去による環境管理や、電気柵の設置等による進入防止対策、そして捕獲対策を加えた総合的な取組を地域ぐるみで実践しているものの、依然として被害は拡大しており、一方で農業従事者や有害鳥獣捕獲隊の高齢化等により、多大な労力を要する対策活動の担い手不足が顕在化している。

これらの被害は営農意欲の減退、耕作放棄地の増加等をもたらし、農山村に対しては被害額以上に深刻な影響を与えることから、鋼製柵の設置等により、予防・捕獲活動の負担を軽減させる新たな取組が求められている。

ついでには、とやま呉西圏域の連携事業においても、農作物の被害を防止し、中山間地域における農業生産活動等を維持させるため、圏域全体で被害対策に取り組む体制を整備することにより、捕獲活動等への支援を行っており、これらの取組について格別のご配慮を願いたい。

### ・ 鳥獣被害防止対策事業の推進

## 富山県西部地域における経済成長を促す産業拠点施設の活用について

本圏域では、散居村の美しい砺波平野が良質な米の産地となっているほか、干し柿やサトイモ、そしてチューリップの球根も有名である。また、3,000m級の立山も望むことができる美しい富山湾は寒ブリを始め、シロエビ、ベニズワイガニの好漁場にもなっている。これら農林水産業だけでなく、アルミ、鉄鋼等の金属・非鉄金属製品を中心とした素材産業が集積し、銅器、鋳物、木工などの伝統工芸産業も含めたものづくり産業が盛んであることから県内の産業拠点となっていることが“強み”である。

これらの本圏域における“強み”は、起業・創業や新成長分野への挑戦に対する支援、産官学金が連携した新技術・新製品の開発支援や環境整備、異業種間交流の推進や地域資源のブランディング、圏域の多彩な自然や文化、地域資源を活かした戦略的なプロモーションや旅行商品の造成などの連携事業で磨いているところである。

各種の連携事業を進めるにあたっては、とやま呉西圏域内の事業者はもとより、大学、金融機関だけでなく富山県とも軌を一にした取組を進めることが必要不可欠である。“とやま呉西圏域の強み”を磨くことが、引いては“富山県の強み”になることから、本圏域の活性化に資する産業拠点施設の積極的活用について格別のご配慮を願いたい。

- ・ 富山県薬事総合研究開発センターを活用した「くすりのシリコンバレー TOYAMA」創造コンソーシアムによる付加価値の高いバイオ医薬品等の研究開発促進及び専門人材の育成・確保
- ・ 富山県産業技術研究開発センター・ものづくり研究開発センターにおける「オープンイノベーション・ハブ」の施設を活用した研究・開発促進及び隣接地への「富山大学先進アルミニウム国際研究センター」誘致への支援
- ・ 富山県産業技術研究開発センター・生活工学研究所におけるヘルスケア製品開発拠点の施設を活用した新繊維・素材を用いた高機能ウェアやスポーツ関連製品等の開発促進
- ・ 富山県総合デザインセンターにおける「バーチャルスタジオ」を核とした幅広い産業分野における国内外のデザイナーとの連携促進
- ・ 氷見栽培漁業センター（富山県栽培漁業センター）の早期改修による種苗生産体制の充実及び小学生の社会見学や中学生の職場体験、一般の観光客の受入れなど、漁業を通じた教育・産業観光の推進

とやま  
呉西圏域

栽培漁業推進拠点

氷見市

アルミものづくり拠点

デザイン交流創造拠点

高岡市

射水市

薬事研究拠点

小矢部市

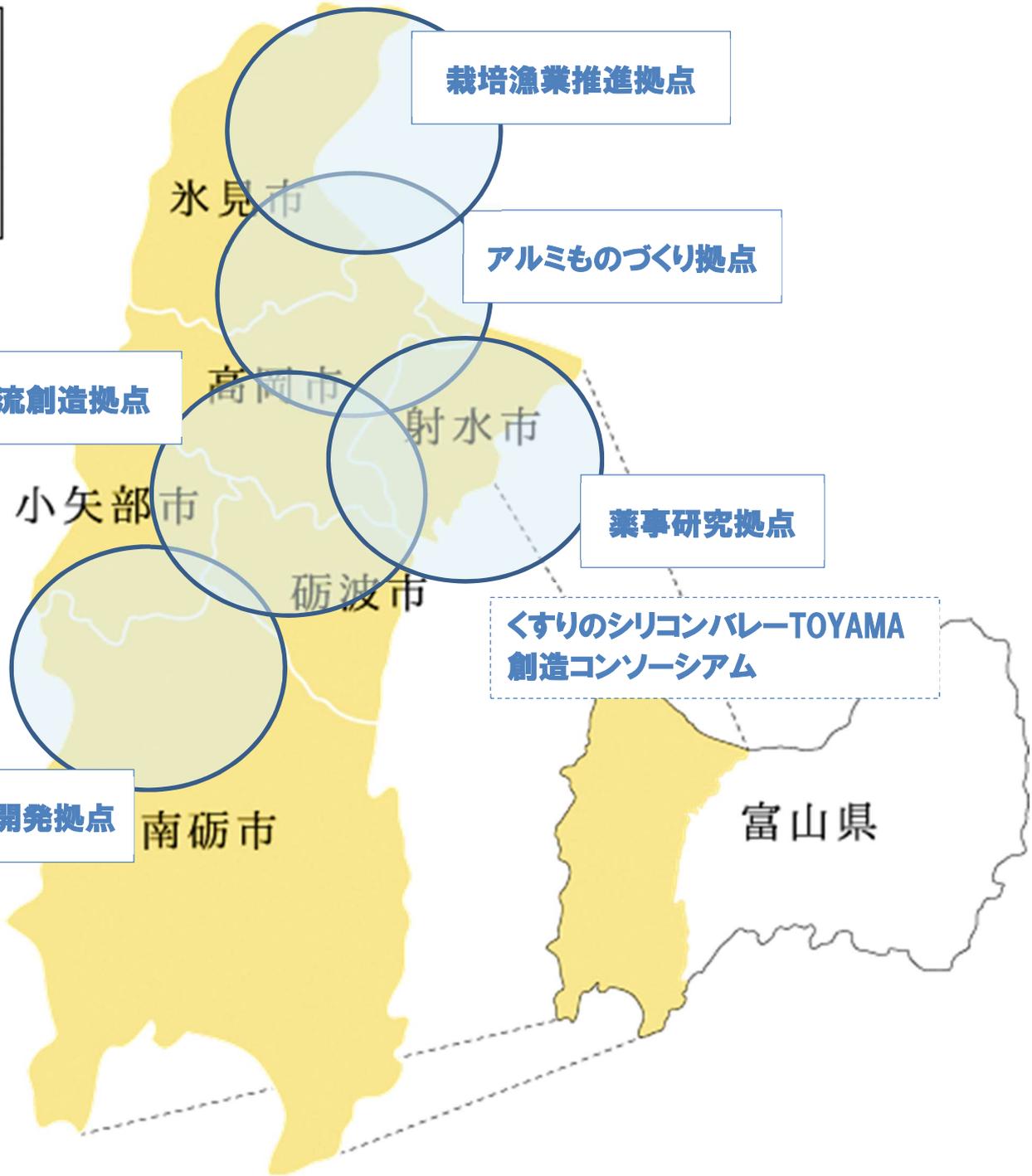
砺波市

くすりのシリコンバレーTOYAMA  
創造コンソーシアム

ヘルスケア製品開発拠点

南砺市

富山県



## 城端線・氷見線L R T化の検討に対する支援について

城端線・氷見線はこれまで地域住民の通勤・通学など日常の生活路線として大きな役割を果たすとともに、北陸新幹線開業後は、新たに新幹線を介した広域交流の裾野を広げる役割を担うなど、富山県西部地域における重要な交通手段である。

このような中、令和元年12月に西日本旅客鉄道株式会社から、より利便性の高い公共交通を実現し、沿線の活性化につなげるため、両線をL R T化することによる直通運行計画が4市に提案されたところであり、これを受けて、富山県、西日本旅客鉄道株式会社、沿線4市において「城端線・氷見線の未来に向けた検討着手について」を公表し、実現の方法及びその可能性も含めて検討していくことを決めたものである。

さらに、今年度からは、城端線・氷見線のL R T化を本格的に検討していくため、富山県総合交通政策室に「広域交通対策・L R T化検討班」が設置されるとともに、西日本旅客鉄道株式会社金沢支社副支社長、県観光・交通振興局長及び沿線4市副市長を委員とする「城端線・氷見線L R T化検討会」を発足させ、連携して需要予測調査をはじめその実現の可能性も含めて検討を進めているところである。

については、今後も地域が将来にわたって都市・生活機能を維持するためには、持続可能な交通体系の確立が必要不可欠であることから、引き続き、城端線・氷見線のL R T化を含めた新たな交通体系の検討について富山県に先導的な役割を担っていただくよう、格別のご支援とご協力を願いたい。

- ・ 県西部地域における持続可能な交通体系の確立に向けた城端線・氷見線L R T化の検討に対する支援